

【表紙】

【提出書類】 半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の5第5項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2025年2月14日

【中間会計期間】 第56期中（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

【会社名】 平安レイサービス株式会社

【英訳名】 HEIAN CEREMONY SERVICE CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山田 朗 弘

【本店の所在の場所】 神奈川県平塚市桜ヶ丘1番35号

【電話番号】 0463-34-2771（代表）

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 土屋 浩 彦

【最寄りの連絡場所】 平塚市桜ヶ丘1番35号

【電話番号】 0463-34-2771（代表）

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 土屋 浩 彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【半期報告書の訂正報告書の提出理由】

2024年11月14日に提出いたしました第56期中（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）半期報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部【企業情報】

第2【事業の状況】

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

第4【経理の状況】

1【中間連結財務諸表】

【注記事項】

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

3 【訂正箇所】

訂正箇所は____を付して表示しております。

第一部【企業情報】

第2【事業の状況】

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

（訂正前）

① 冠婚事業

当事業では、コロナ禍を経て新しい生活様式が普及し、よりプライベートな空間や形式にこだわらないウェディングスタイルへの変遷がみられ、よりニーズは多様化しております。その中で、Webを中心に露出を増やすとともにドレスフェスタを開催し施設周辺エリアの告知を強化、フォトウェディングや成人式などの各種衣裳レンタルや写真撮影といった商品の販売強化を行ってまいりました。

その結果、売上高は93百万円（前年同期比21.3%減少）、営業損失は15百万円（前年同期は3百万円の営業利益）となりました。

② 葬祭事業

当事業では、建物貸切型の葬祭施設として2024年5月に「湘和会館竹松」、2024年9月に「湘和会館国府津」を開業し、順調に施行件数を伸ばしました。

また、故人を生花で囲んで送る「花園」や思い出の品々で人柄を表現する「追悼壇」、オブジェや装飾と生花を融合させた「追悼生花祭壇」、重低音から超高音まで原音を忠実に再現する「オリジナル大型スピーカー」により故人を偲ぶ音楽葬をはじめとした自由葬の提案、ご家族が故人にゆったりと寄り添えるご安置個室「貴殯室」、その他社内製作によるオリジナル商品を通じてご家族の方々の想いを形にする提案を継続して行い、顧客満足度向上に努めてまいりました。加えて、幅広い顧客ニーズに対応するべく「追悼生花祭壇」のラインナップを追加致しました。

教育面では、当社独自となる生前相談の研修であるカウンセリングセールストーク研修、潜在的な想いを当社オリジナル商品を通じて具現化するコンサルティングセールストーク研修を常に現場で行えるよう、管理職に対して改めて実施するとともにツール刷新を行い推進致しました。また、対応品質改善による生前相談数増加と決定率向上のため、電話やメール相談を一括管理して対応するコールセンター機能を社内に構築致しました。

その結果、前年同連結会計期間に比べ当社主要エリアにおける死亡人口増減率が上昇する中、施行件数及び葬祭一件単価は増加したことにより、売上高は4,274百万円（前年同期比7.4%増加）、営業利益は1,230百万円（前年同期比17.4%増加）となりました。

(訂正後)

① 冠婚事業

当事業では、コロナ禍を経て新しい生活様式が普及し、よりプライベートな空間や形式にこだわらないウェディングスタイルへの変遷がみられ、よりニーズは多様化しております。その中で、Webを中心に露出を増やすとともにドレスフェスタを開催し施設周辺エリアの告知を強化、フォトウェディングや成人式などの各種衣裳レンタルや写真撮影といった商品の販売強化を行ってまいりました。

その結果、売上高は93百万円（前年同期比21.3%減少）、営業損失は18百万円（前年同期は3百万円の営業利益）となりました。

② 葬祭事業

当事業では、建物貸切型の葬祭施設として2024年5月に「湘和会館竹松」、2024年9月に「湘和会館国府津」を開業し、順調に施行件数を伸ばしました。

また、故人を生花で囲んで送る「花園」や思い出の品々で人柄を表現する「追悼壇」、オブジェや装飾と生花を融合させた「追悼生花祭壇」、重低音から超高音まで原音を忠実に再現する「オリジナル大型スピーカー」により故人を偲ぶ音楽葬をはじめとした自由葬の提案、ご家族が故人にゆったりと寄り添えるご安置個室「貴殯室」、その他社内製作によるオリジナル商品を通じてご家族の方々の想いを形にする提案を継続して行い、顧客満足度向上に努めてまいりました。加えて、幅広い顧客ニーズに対応するべく「追悼生花祭壇」のラインナップを追加致しました。

教育面では、当社独自となる生前相談の研修であるカウンセリングセールストーク研修、潜在的な想いを当社オリジナル商品を通じて具現化するコンサルティングセールストーク研修を常に現場で行えるよう、管理職に対して改めて実施するとともにツール刷新を行い推進致しました。また、対応品質改善による生前相談数増加と決定率向上のため、電話やメール相談を一括管理して対応するコールセンター機能を社内に構築致しました。

その結果、前年同連結会計期間に比べ当社主要エリアにおける死亡人口増減率が上昇する中、施行件数及び葬祭一件単価は増加したことにより、売上高は4,274百万円（前年同期比7.4%増加）、営業利益は1,082百万円（前年同期比3.3%増加）となりました。

第4 【経理の状況】

1 【中間連結財務諸表】

【注記事項】

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(訂正前)

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	冠婚事業	葬祭事業	互助会 事業	介護事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる 収益	93,935	4,274,667	—	557,756	4,926,359	10,652	4,937,011
外部顧客への売上高	93,935	4,274,667	—	557,756	4,926,359	10,652	4,937,011
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	100,661	—	100,661	—	100,661
計	93,935	4,274,667	100,661	557,756	5,027,020	10,652	5,037,672
セグメント利益又は 損失(△)	<u>△15,408</u>	<u>1,230,069</u>	56,781	12,414	<u>1,283,857</u>	1,594	<u>1,285,452</u>

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,283,857
「その他」の区分の利益	1,594
全社費用(注)	<u>△681,180</u>
中間連結損益計算書の営業利益	604,272

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(訂正後)

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	冠婚事業	葬祭事業	互助会 事業	介護事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる 収益	93,935	4,274,667	—	557,756	4,926,359	10,652	4,937,011
外部顧客への売上高	93,935	4,274,667	—	557,756	4,926,359	10,652	4,937,011
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	100,661	—	100,661	—	100,661
計	93,935	4,274,667	100,661	557,756	5,027,020	10,652	5,037,672
セグメント利益又は 損失(△)	<u>△18,274</u>	<u>1,082,005</u>	56,781	12,414	<u>1,132,926</u>	1,594	<u>1,134,521</u>

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,132,926
「その他」の区分の利益	1,594
全社費用(注)	<u>△530,249</u>
中間連結損益計算書の営業利益	604,272

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。